

第53回「博報賞」受賞者一覧

(※敬称略・都道府県順)

【博報賞・文部科学大臣賞】

新潟県	糸魚川市立木浦小学校
愛知県	音訳ボランティア 虹の橋会
高知県	高知市立義務教育学校 土佐山学舎

【博報賞】

北海道	浜中町立散布小中学校
岐阜県	一般社団法人 ぎふ学習支援ネットワーク
京都府	京都市立下京中学校
島根県	奥出雲町立高尾小学校
岡山县	岡山県立誕生寺支援学校 地域学校協働本部
高知県	高知市立江陽小学校
佐賀県	鹿島市立古枝小学校
鹿児島県	鹿児島国語教育研究会 原国会

【功労賞】

岩手県	柳原 千明(花巻市立桜台小学校 教諭)
宮城県	兵庫 淑子
新潟県	長岡市立希望が丘小学校
三重県	亀の会
愛媛県	八幡浜市立愛宕中学校
愛媛県	八幡浜市立川上小学校

【奨励賞】

千葉県	栄町立布鎌小学校
大阪府	特定非営利活動法人 クロスベイス
兵庫県	永田 守(芦屋市立打出浜小学校 教諭)
広島県	広島県立呉特別支援学校 江能分級

※活動内容につきましては、当財団HPに掲載いたします。「博報賞 最新の受賞者」ページにてご確認ください。

主催

公益財団法人 **博報堂教育財団**

後援

文部科学省

【博報賞・文部科学大臣賞】受賞数 3件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
いといがわ　このうら 糸魚川市立木浦小学校 (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	新潟県 糸魚川市	<p>全校児童が9名という困難な環境を逆に強みにして、児童からも教職員からも「こんなワクワクすることをやってみたい」という提案を募り、まさに子どもが笑顔になる活動を多彩に展開した点が高く評価された。全校の子どもと先生が「逃走中！」のように全力で遊んでいる様子は本当に楽しそうで、こんな学校に通ってみたい！と本気で思われる。「～ねばならない」という固定観念を捨てようという児童への呼びかけが、教師や学校自身もしなやかでおおらかなにしていた点は、小規模校だけではなく、全国の学校のロールモデルとなるだろう。</p>
音訳ボランティア 虹の橋会 (特別支援教育)	愛知県 岡崎市	<p>視覚障がいがある子の母親の「子どもに本を読んでいただけないか」という新聞投書を機に、1974年から47年間継続されている音訳ボランティア活動である。また、特別支援学校(視覚障がい)での遊びを取り入れた読み聞かせにも継続して取り組んでいる。視覚障がいの子どもが体全体を使って本に親しむ機会を、積極的に提供することによって、子どもの笑顔につながる極めて貴重な取り組みである。</p> <p>コロナ禍のため、対面での活動は困難になっているものの、録音・編集されたCDを学校に届けるなど、学校の教育活動にも大いに貢献している実践であり、さらなる発展を期待する。</p>
高知市立義務教育学校 とさやまがくしゃ 土佐山学舎 (日本文化・ふるさと共創教育)	高知県 高知市	<p>義務教育学校の9年間において、子どもたちの資質・能力をしっかり育てる教育課程が構築されている。地域学習とキャリア教育を柱とした総合的な学習の時間を核として、全体計画の下に発達段階に応じたテーマで学習が展開されている。学びの成果を表現する方法として英語教育と連携させている点も工夫が見られる。子どもたちはコロナ禍において土佐山学の学びをとめず、その状況から課題を見つけ出している。課題が子ども自身のものとなるまで指導者は問を投げかけ、待ち続ける。指導者が待つことで子どもたちが自主的で生き生きと学んでいるのだと納得した。</p>

【博報賞】受賞数 8件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
浜中町立散布小中学校 (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	北海道 厚岸郡 浜中町	<p>地域の基幹産業であるあさりの養殖を中心とした総合的な学習の時間の取り組みである。散布漁業協同組合の協力の下、貸与された干潟(あさり島)を活用する中で、自然環境を保護する活動や海の環境保全に関する活動を継続的に行っている。地域の海や水産業、そこに暮らす人々の様子を探求することで、ふるさとへの愛着を深め、地域の未来とその発展を考える子どもが成長してきている。海洋教育は、海に囲まれた日本ならではの学びの姿であり、小学校の1年生から中学校の3年生までの学習活動とカリキュラムは、多くの学校の参考になるものと期待できる。</p>
一般社団法人 ぎふ学習支援ネットワーク (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	岐阜県 岐阜市	<p>学習支援は生活支援と両輪でこそ機能することを示す貴重な実践である。子どもの7人に一人が貧困といわれる社会格差が大きな問題になる中で、各支援団体をネットワーク化することで子どもの学習や高校進学を包括的に支え、行政とも連携しながら岐阜県全体に学習保障のセーフティネットを構築している点が素晴らしい。特に、普段から子どもに顔の見える信頼関係をさまざまなかたちで構築することによって、長期間の継続的な支援を実現している点や、家庭訪問してアウトリーチ型の学習支援で高校進学率を上げている点などが、高く評価された。</p>
京都市立下京中学校 (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	京都府 京都市	<p>一人ひとりの生徒には、持続可能な社会を創造し、自らがその担い手となることが期待されている。下京中学校は、こうした未来社会を創造する主体を育成することこそがキャリア教育の本質であると考え、カリキュラムをデザインし、カリキュラムをマネジメントすることに取り組んできた。教育目標をカリキュラム化していく過程は、極めてロジカルで意図的な方法を採用している。また、その実現に向けて授業を改善し、指導体制を整えていく実践は、カリキュラム・マネジメントにチャレンジする全国の多くの中学校の指針となるであろう。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
奥出雲町立高尾小学校 (日本文化・ふるさと共創教育)	島根県 仁多郡 奥出雲町	<p>「落語学習展開ウェブマップ」が示しているように、寄席の運営や高齢者との交流、メディアへの対応などの子どもが自主的に進める学びがイメージ通りに広がりを見せている。日本の伝統文化である話芸を、特別活動や総合的な学習の時間を中心とした「ふるさと教育」の中心に位置付けて学習している。恥ずかしがったり積極性の向上が求められたりすることが小規模校の児童の課題とよく言われる。しかし高尾小学校は、落語という話芸の伝統文化を学ぶ教育活動を通して、ことばを通して思いを伝え、聞き手の思いを想像して、豊かな表現力を育てることで、見事に解決している。</p>
岡山県立誕生寺支援学校 地域学校協働本部 (特別支援教育)	岡山県 久米郡 久米南町	<p>学校教育活動の場を学校のみならず、地域にも広げ、地域の人たちと共に教育活動が実践されている。学校と地域学校協働本部が連携した協働活動は、2013年度から継続的に実施され、小学部高学年から高等部の児童生徒が参加する活動となっている。協働活動を通して、児童生徒が地域の人々と交流しながら成長している様子が伝わってくる。加えて、協働活動は卒業生の居場所づくりにも、地域づくりにも貢献している。協働活動を推進することが、インクルーシブな社会の実現をもたらすことを予感させる。特別支援学校における地域学校協働本部の実践モデルと言える。</p>
高知市立江陽小学校 (国語教育)	高知県 高知市	<p>江陽小学校の取り組みは、単元を主体的・対話的に深く学んでいけるようなオリジナリティあふれるカリキュラムマネジメントの実践として高く評価できる。「学びの山」は、ゴールを明確化しそこへ至るプロセスを具体的に整理し共有・調整するもので、学習指導のほか学校運営にも生かされている。全教科の単元配列を可視化し構造化・焦点化する「学びの地図」という取り組みもある。教科を越えて学習内容が有機的に関連づけられ、国語科の学びが他教科にも生かされている。さらに、班で暖かな話し合いの基盤を作る「花はなタイム」も注目される。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<p>かしま　ふるえだ 鹿島市立古枝小学校 (日本文化・ふるさと共創教育)</p> <p>【活動タイトル】 地域と共に創る学校づくり ～小学校における 主権者教育の視点を取り入れた 課題探究型学習の取組をとおして～</p>	佐賀県 鹿島市	農業、自然、伝統芸能等の地域の学習材を活用した体験的な学習に、新たに主権者教育の視点を取り入れ、課題探究型学習として児童自身が問い合わせを設定して、学習を計画し実行している。総合的な学習の時間に、地域に関わるテーマの下、各学年の児童が地域の人々に積極的に考えや思いを伝え、新しい学習の可能性が開かれている。成果は全国学力・学習状況調査の「人や社会の役に立つ人間になりたい」等の回答割合の上昇につながり、学力の向上をもたらした。地域を生かした新たな視点の授業づくりは、次の世代を担う児童、教師を育てるモデルケースといえる。
<p>鹿児島国語教育研究会 げんこく 原国会 (国語教育)</p> <p>【活動タイトル】 「選択と対話」がある「書くこと」の研究 ～地域に根差した「わくわく作文塾」～</p>	鹿児島県 鹿児島市	本研究会の「わくわく作文塾」の営みは、実際に多くの児童の文章表現力を高める支援となった。書きことばについて児童の「メタ認知能力」を高めることで、文章表現意識を育て、ことばによって生活世界を捉えるものの見方を児童にもたらした。また、会の教育活動の中心である「選択と対話」は豊かな文章表現を支える行為であるにとどまらず、学びの場での協働の思考を育み、一人ひとりのことばと思考を豊かにし、自立した学び手を育てる教育の根幹でもある。地域に根ざした言語表現者を育てる質の高い国語教育実践として高く評価することができる。

【功労賞】受賞数 6件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<p>やなぎはら　ちあき 柳原 千明 (花巻市立桜台小学校 教諭) (国語教育)</p> <p>【活動タイトル】 小学校全学年における 短歌創作指導の取組</p>	岩手県 花巻市	短歌創作を通して児童のことばの力を育てるための多角的な国語教育実践を地道に推進してきた実践者である。考えたことや思ったこと、経験したことなどを、児童がことばにして表現する実践を長期間にわたり継続的に実践してきた。児童がことばを選び表現することを繰り返すことで、一人ひとりのことば意識やことば自覚が生み出されたことが、受賞者の教育実践をもとにした著作の随所にあらわれている。音読などの下地づくり、地域教材の活用、歌会などの児童と指導者による「協働の学び」実践の積み重ねが児童の豊かなことばを育んだ足跡は貴重であり、功労賞に値する。

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
兵庫 淑子 ひょうご よしこ (日本文化・ふるさと共創教育)	宮城県 仙台市	<p>保護司である受賞者は、里親制度の仕組みをホタルの幼虫を育てる輪を広げる仕組みにつなげる工夫をしている。自ら育てたホタルの幼虫を一定期間、里親となって親子に育ててもらい幼虫を川に放つことで、環境やふるさとである地域を思うようになる。この「里親の会」に所属する受賞者は、清掃活動までつなげる社会教育活動を進めており、功労賞に値する。「仙台市ほたるの里づくり協議会」の前身である定義ホタルの里づくり実行委員会は、平成20年前後から活動を始めている。これまでの長期間にわたって継続している点からも、ふさわしい賞であると考える。</p>
長岡市立希望が丘小学校 ながおか (日本文化・ふるさと共創教育)	新潟県 長岡市	<p>平成24年度から6年生が、命の尊さや今生きる幸せの実感、空襲体験者の思いを引き継ぐことを中心に、長岡空襲をテーマにした総合創作劇に取り組み、今年で11年目となる。「ふるさと学習プラン」に12月に各学年に「いのちを学ぶ日」を位置づけ、平和への思いを学校全体で学ぶ計画としている。学びのゴールを創作劇の発表のみとせず、「平和活動取り組みカード」で日々の生活で意識を喚起し成果をあげている。ふるさとの歴史を忘れず、地域の方の思いを受けて学習として取り上げ、毎年担当の教員がプランを見直して次につないでいる努力は功労賞に値する。</p>
亀の会 (特別支援教育)	三重県 亀山市	<p>亀山市身体障害者福祉協議会のメンバーが、障がい当事者の立場からの社会貢献活動を行う「亀の会」を設立した1999年からこれまで23年間の長きにわたり、亀山市内の特別支援学級児童生徒等との交流活動に取り組んでいる。活動は、学校教育活動と連携して、学校の教育課程、年間指導計画に位置づけられた上で、自立活動や生活単元学習において展開されていることは特筆すべき点である。</p> <p>また会の活動は特別支援教育分野だけではなく、不登校児童生徒を対象とする適応指導教室や小・中学校、高等学校等の児童生徒を対象として行われており、地域資源として根付いている。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
やわたはま あたご 八幡浜市立愛宕中学校 (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	愛媛県 八幡浜市	<p>生徒会が、人権・同和問題やいじめに関する問題について、自由参加による自治的なサークル「リバティ」を設立し、「身近な生活から、不合理なことやいじめ、差別を見抜き、自ら解決しよう」の目標の下で活動を継続してきた。学校種を超えた連携や地域とつながる活動の中で、参加する生徒の意識変化が連続的に生まれている。また、直接的に参加している生徒のみならず、全校の生徒への好ましい波及効果も見られる。多様性が重視される社会の中で、一人ひとりの人権を尊重しようと生徒が自らアクションを起こした取り組みである。</p>
やわたはま かわかみ 八幡浜市立川上小学校 (日本文化・ふるさと共創教育)	愛媛県 八幡浜市	<p>平成16年に学校側が神楽保存会に協力を依頼し、川名津子ども神楽の学びを教育課程に取り入れてきた。ひびき集会を目標に、総合的な学習の時間を中心に学びを深め、神楽保存会の方の指導を受けて、5・6年生が神楽の練習を積み重ねる。この発表を見た低学年の児童は先輩の姿を目標にする。高学年は学びを地域の行事へ参加する形で発表し、地域との連携を深めていく。17年間という時間の経過は教職員の異動や教育環境の変化により教育の質保障が問われる時代に、地域と連携しながらふるさとの伝統文化を自校の独自の学びとして確立してきたところに高い評価をおく。</p>

【奨励賞】受賞数 4件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
さかえ ふかま 栄町立布鎌小学校 (日本文化・ふるさと共創教育)	千葉県 印旛郡 栄町	<p>利根川等の3つの川に囲まれた立地から、決壊を防ぐ土手を固める慣わしに因む子ども相撲が地域行事、学校行事として伝承されている。教育課程上「特別活動」の学校行事として「相撲大会」が開催され、各学年体育の年間指導計画に相撲を位置付けている。地域の古老に作法を習うことでの、体ごとぶつかるよさが体得され、長期欠席の児童がいないこと、いじめの発生件数の少なさにつながっていると考えられる。本校のように相撲を取り上げる価値はもっと発信されてもよい。身体的、精神的な価値双方について、エビデンスを積み重ねられるとよい。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
特定非営利活動法人 クロスベイス (国際文化・多文化共生教育) 【活動タイトル】 差別と貧困をなくし、 共に生きる社会をつくる	大阪府 大阪市	<p>ヘイトスピーチを発端に、出自や家庭環境によって子どもの尊厳が侵害されることのないよう、多様性の尊重や公正な社会の実現に向けた強い思いのもと、外国にルーツを持つ子どもたちに寄り添った居場所づくりや学習保障に取り組んでいることに敬意を表したい。学習支援だけでなく、体験活動にも力を入れており、外国にルーツを持つ子どもたちが地域の一員であることを地域に見せる仕掛けも見られる。今後、多文化共生のまちづくり拠点「いくのコーライブズパーク」に活動がどのように反映され、さらなる発展が見られるのか、今後に期待したい。</p>
永田 守 <small>(あしゃ うちではま)</small> (芦屋市立打出浜小学校 教諭) (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動) 【活動タイトル】 学校文化としての 「震災をわすれない取組」の構築	兵庫県 芦屋市	<p>永田教諭は、阪神淡路大震災で亡くなった子どもの追悼をきっかけに、被災の記憶を継承するための取り組みを重ねてきた。現役教師が多忙な学校の中で、他の教職員全体の理解を醸成しながら、この取り組みを7年間継続した点が貴重である。また、過去の震災で傷ついた子どもを大切にし続ける姿勢を、今を生きる子どもに示すことを通して、単なる安全教育の枠を超えて、人間が大切にされるということはどういうことかを考える取り組みである点が、高く評価された。</p> <p>永田教諭の実践の発展と共に、永田教諭の異動後もこの取り組みが同校で継承されることを期待したい。</p>
広島県立呉特別支援学校 江能分級 (特別支援教育) 【活動タイトル】 島を元気に！地域と協働、地域に貢献 ～自慢のオリーブで私も地域も学校も～	広島県 江田島市	<p>市の地域振興策であるオリーブ栽培を素材に、地域と共にオンリーワンを目指す教育活動である。地元生産者と連携したオリーブの栽培、オリーブを使った高齢者の思いを意識したモノづくり、「自分たちにもできることをしたい」という児童生徒の願いからスタートした特産品開発など、特別支援学校の教育活動に大きなヒントを与える実践が展開されている。実践の開始から5年が経過し、活動にさまざまな広がりがみられているが、少子高齢化といった課題に直面している地域において、地域と共に発展する学校としての挑戦を見守っていきたい。</p>

公益財団法人 博報堂教育財団

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル14階 TEL:03-6206-6266(平日9:30~17:30)
 URL:<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/> 博報質問合せ先(メール):hakuhoushou@hakuhodo.co.jp